

お念仏は、2500年間途絶えることなく相続されてきた人類の宝物です。

あなたの「生きる」を支えるお寺

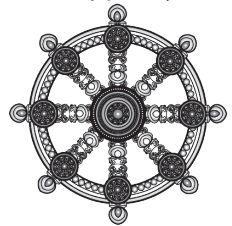
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.363



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス：purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

お盆の時期、ご先祖と一緒に

お念仏との出会いをよろこぶ集い

歡喜会

物故者追悼法要

八月十一日（火）

午前十時から正午まで
午後一時半から三時半まで

ご法話

愛荘町報恩寺

鎌田宗雲師

講題

「浄土真宗に学ぶ」

※お参りの際は、どなたかを是非誘っておいでください。



8月24日（月）10:00~12:00
13:30~15:30

お寺の枠を超えた法友とのであい こんき常例布教

法話 純正寺住職 釋 覚恵

『歎異抄に学ぶ』
第6条・第7条の読み解き

住職法話

われかくのごとく
我聞如星

「また会える」が生きる力に②

生きる支えに

二〇一四年七月には、本願寺で震災体験をお話しされた大友さおりさん。雅人くんが、前年の三回忌の際に「釋淨雅」という法名を頂かれていたことから、大友さんご家族もこの機会に帰敬式を受け、法名を頂こうということになり、さおりさんは「釋妙雅」、お連れ合いさんは「釋雅徳」、娘さんは「釋雅香」という法名を頂かれました。このことで、お浄土でまた雅人くんに会えるという気持ちが大きくなったようで、娘さんとこの先いつかお別れする時が来ても「またお浄土で会おうね」と言える自分になれたとお話してください。

いました。

その頃には、娘のあかりさんも「だぶつまつ」と（なもあみだぶつまさと）と言いながら手を合わせるようになられたそうで、さおりさんも少しづつ気持ちに余裕ができて、娘さんの成長を感じながら手を合わせる事ができるようになりました。

その後、小学校に通われる様になった娘さんは、「雅人お兄ちゃんはお浄土にいて、次にパパやママがお浄土に行つて、そのずつとあとに自分もお浄土に行くから、またみんな家族四人で会えるんだね」と言われるようになったそうです。

「また会える」このことは、

さおりさんたちが限りあるいのちを生きていく上で、大きな支えとなつていったのでした。

伝えたいこと

さおりさんが、初めて仙台別院を訪ねられた時、別院の職員さんから「人は必ず死にます。生きているからこそが奇跡です。そして、大切な人はその死を通じて私たちに大事なことを伝えてくれるのです」と聞かされていました。しかし、さ

おりさんははじめ雅人くんが一体何を母親であるさおりさんに伝えようとしてくれているのか、はつきりとはわからなかったそうです。

例えば、雅人くんから繋がったたくさんのご縁に支えられて生きてこれたことに感謝しつつも、雅人くんが生きていればどのご縁も

いらなかったのにと思ったり、震災後の様々な支援に感謝しつつも、支援される側ではなく笑顔で支援する側の方が良かったなどと思ったり。そんなひねくれた私を、阿弥陀様は目当てに救つてくださることを喜びつつも、「どんな人でも救われる」という教えに納得がいかなかったり。お浄土でまた会えるというのは、死別の悲しみをやわらげるための、一時的な慰めなのではないかと思ったり。

さおりさんは、そのような行ったり来たりと揺れる思いを感じながら、東日本大震災の七回忌を兼ねた伝灯奉告法要に参拝されたのでした。その際に、本願寺の職員さんから勧められたのが、中央仏教学院の通信教育でした。中央仏教学院とは、本願寺が営む浄土真宗の専門学校です。

さおりさんは、「雅人くんがさおりさんに伝えたかったことが何なのか、お浄土で雅人くんと会えることを心から信じられるようになりたい」という思いから、通信教育の入門過程に入学されました。

和顔愛語

第一回配本のテキストのはじめには、「人生は苦である」というお釈迦さまのお言葉について書かれていたそうです。そこには、「四苦八苦」が説かれながら、「思い通りにならないことを思い通りにしようとしているから苦しくなるのです」と書かれていて、それを読んだ時には胸が締め付けられて涙が止まらなかったそうです。

その頃のさおりさんは、雅人くんともう会えないこ

と、その悲しみをなかなか理解してもらえないこと、子どもを亡くした私との接し方がわからないからと、距離を置く友人や知人がいることなどに悩み苦しんでおられた時期でした。そんな気持ちの中で読まれたテキストの言葉は、さおりさんの心に突き刺さりました。

震災直後は「こんな思いをするために、私はこの世に生まれてきたのか。生まれてきた意味はあるのか」と苦しまれてきたさおりさん。しかし、仏教の学びの中で、生きていることそのものが苦しみなのだと思われたことで気持ちが楽になり、思い悩むこの気持ちも少しずつでも受け入れていくと思うようになれました。

浄土真宗の教えに出会えたことで、最愛の子どもを喪った悲しみが減ったりな

くなったりすることはないけれど、その悲しみを抱えながらどのように生きていくかと考えるようになったり、行動するようになったことは、さおりさんにとって大きな変化となりました。大切な人をなくした者にとつて、「お浄土でまた会える」という教えは、生きている支えなのだ、今さおりさんは実感されています。

そして今、さおりさんは雅人くんが伝えようとしている大事なことがわかったと話されました。それは、通信教育で学ばれた仏説無量寿経の中の言葉「和顔愛語」でした。さおりさんは、この言葉は「お母さん、これから笑顔と優しい言葉を大切に生きていってね」という、雅人くんからのメッセージだと受け止められたのです。

今から二年前の二〇二四年の春、さおりさんは空き家になった民家を譲り受けてリフォームをし、そこで「まさとくんちのごはん」という食堂オープンされました。現在、この食堂では毎月二回子ども食堂も運営されているそうです。私もこの食堂でご馳走になりましたが、まさにさおりさんの笑顔は「今、私しあわせです」でした。

浄土真宗という教え、それは決して生きていることとは関係のない死んだ後のことなどではありませんでした。限りあるこのいのちの確かな行方をお浄土だと疑いなくいただき、お浄土からお念仏を通して今を生きていく力を常にいただき、お浄土に向かつてこのいのちを生き切るという教えだったのです。 終わり



8月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



キッズサンガ「ほとけの子ども会」

8日(土)・22日(土)
10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めをして、仏典童話を聞きながら仏教の感性を学びます。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

16日(日)・30日(日)
15:00~17:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。おやつタイムもあります。

みんなの食堂ビハーラ

5日(水)・19日(水)
17:00~19:00

年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

23日(日)
18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

「月例法話座談会」

18日(火)
14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

みんな法友こんき常例布教

24日(月) 10:00~15:30

年齢性別は問いません

所属寺の枠を超えた気楽な法座に、お聴聞の朋友の輪が広がります。今月のご法話も、純正寺住職の「教行信証を学ぶ」です。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
仏事の事や生活の事など、なんでも気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は、
090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは
namo-yorozu@docomo.ne.jp

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

「歓喜会」「物故者追悼法要」

11日(火) 10:00~15:30

年齢性別は問いません

お浄土に往生されたご先祖がくださる仏法聴聞のご縁です。ご法話は、愛荘町報恩寺の鎌田宗雲師です。

純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞していただけます。下記のQR(二次元)コードを、スマホのQRコードリーダーで読み込んでください。



YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル

今月のエコキャップ一、七六四、一二三二個

今年の梅雨明けは早かったですね。長い厳しい夏を、熱中症に気をつけて過ごしましょう。今月は、七、一五〇個のペットボトルキャップをお預かりしました。